

お米の元気パワーに

畑山
ほの

「ごはんできました」

お母さんがそう言った後、私はすぐにリビングに行き、夕ご飯の準備をする。ご飯のいい匂いがすると、足どりが軽くなり笑顔になる。

「いただきます」

家族全員で声を合わせて言った後、私は必ず一番始めにご飯から食べる。ホカホカの甘くて優しい炊きたてのお米は、始めの一口が一

番おいしいからだ。

私は小さい頃からお飯が好きで、ご飯の上にキムチや納豆をのせてよく食べていた。たぶん日本人のほとんどの人がご飯が好きだろう。ご飯を食べている時は、みんな自然と笑みがこぼれて楽しそうに食べている。そんな姿を見るのが私は大好きだ。

小学5年生になった時、授業で実際にお米を作る事があった。その時にお米がどれだけ長い時間をかけて育てられ、どれだけたくさ

んの手間がかけられているのかを知り、私は
驚いた。いつも食べているご飯がこんなに大
変な思いをして育てられた後、私たちの所に
届けられていたこと。それまで、そんなこと
を一度も考えたことがなかった。

米作りの大変さを知る一片で実際にお米を
自分で収穫したいと思うようになった。コロ
ナ禍の影響もあり、学校ではあまり稲を育て
る事はできなかつたので田んぼで本当の稲を
見てみたいと思つた。家族に相談すると、体
験をさせてくれる場所を探してくれ、週末に
行つてみる事にした。

朝、早くから稲の収穫にとりかかり、かまの
使い方や稲の刈り方などを教えて頂き少しず
つうまく刈れるようになった。稲を刈ってい
ると昔おばあちゃんが話していたことを思
い出した。

「お米一粒には八人の神様がいるんだよ」
このお米一粒一粒には私に元気パワーをあ
たえてくれて心も体も温かくしてくれる神様が

宿っているんだなあと思いつつ稲刈りをした。これからは食べ物に感謝をして食べたくてはいけな^いと感じた。

収穫が終わった後、腰がすごく痛くなった。や、と終わりがかと思つたら次に収穫した稲を^つるす作業があつた。私は、うわあ、まだあるの!?とすごく驚いた。周りの人たちと協力して稲をつるしている時、農家の人たちはすごく稲に特別な思いがある事に気づいた。これだけ大変な作業なのにいつも粟そりに作業を

していて、この人たちは本当にお米が大好きなんだなあと思つた。作業をしているうちにいつの間にか私の顔にも笑顔があふれていてとても良経験させてもらつたなあと思つた。すべての作業が終わると達成感で胸がいっぱいになった。この一日でたくさんの事を学び自分のお米に対する思いが変わつた。周りの人たちもすごく優しく接してくれて、米作りの大変さや大事さを学ばせてもらった。このお米から、たくさんの笑顔が生まれたくさん

の苦勞やたくさんの人の思いがあるからこそ
こんなにも優しい味がするんだなあと思つた。
最近、部活が忙しすぎてあまりしつかり食事を
とれていない事を今、この作文を書いてい
て感じた。小学5年生の時の米作りで学んだ
事をもう一度思い出して、食べ物大切に毎日
を感謝しながら生きていきたいと思う。

稲は本当にすごいと思う。台風などで風が
吹いてとぼされそうになつても、雨が降つて
地面が水ひたしになつても必死にたえて、強

くたくましく育つていく。そんな稲のように
私も強くなりたい。小さい頃からあきらめが
早く根性がなくてすぐに泣いてしまつていた。
弱虫の私だが稲のように強くたくましく変わ
ていきたいと思つている。

私はこれからも、たくさんご飯を食べて生
きていくが、米作りで学んだことを忘れず、
毎日毎日のお米に感謝しながら一つ一つ
お米をかみしめながら食べていきたい。今
も手を合わせていたいただきます。